

時代の波にもまれて

瑛訪 匠探

東栄寺の山王堂

満開の桜が小雨にぬれた4月3日、東栄寺（中央地区）で新しくなった山王堂（さんのうどう）の完成を祝う行事がありました。

山王堂は、山王大権現（さんのおだいごんげん）を本尊とするお堂で、東栄寺では昭和8年に建てられたものが、今回再建されました。

ここで東栄寺のたどった歴史を紹介しましょう。

1343年（康永2年）に真言宗の常光寺（じょうこうじ）として開かれましたが、江戸時代の1632年（寛永9年）天

台宗に改宗しました。

この改宗は、幕府が全国の寺院を本山と末寺の關係に統制する本末制度を取り入れたなかで起こりました。当時市内には真言宗、天台宗、日蓮宗の寺院がありました。それぞれが各宗派の本山の末寺として組み込まれ登録されました。

常光寺は、天台宗東叡山寛永寺（とうえいざんかんえいじ・現在東京都上野にある）の末寺として東栄寺となり、19か寺の末寺をしたがえることになりました。寺の記録では、当時の住職が家康、2代将軍秀忠、3代将

軍家光につかえた天海（てんかい）に影響され改宗したとされています。おそらく八日市場村の領主稲垣氏も関与したことでしょう。

この時期、全国の寺院では本末關係をめぐり混乱が生じ当地域にも影響が及びましたが、もつとも受けたのが同寺でした。

また、幕末には八日市場村の打ちこわしで集団に占拠されました。

東栄寺が出版した『東栄寺縁起』によると、平成11年に新築された仁王門（におうもん）、そして新造された仁王像はじめ、「八日市場」の地名の由来に結びつくことされる本町の薬師如来（やくしにょらい）像の造立は平成10年とのことでした。

本堂、鐘樓堂（しょうろうどう・釣り鐘堂）、梵鐘（ぼんしょう）の再建、改修が昭和40年代から行われてきました。

東栄寺の山王堂は、語呂（ごろ）合わせのようでもある「山王・さんのう」から「産王」、「お産の王さま」となって安産祈願など女性からの信仰を集めているそうです。

六百数十年の歴史を経てきたという東栄寺は、時代の波にもまれながらも全域での整備がなされ、由緒にふさわしい雰囲気を感じられる寺といえます。

関八日市場図書館 73・3746



雨の中行われた山王堂落慶法要